

《中学生の部》

優秀作（文部科学大臣賞）

埼玉県越谷市立北中学校

2年 岩舘 璃沙

交通マナーの大切さ

私の家は道路をはさんで目の前に小学校の通用門があります。児童のみなさんが使う登校門は別の方向にあり、通用門のすぐそばの学校の敷地の中に学童保育所があります。私自身が卒業した母校であり、小学校四年生までお世話になった学童保育所です。

中学生になってから、学校からの下校時間に家の前の道路に何台も車がとまっているのをよくみかけるようになりました。家の前の道路は歩道のない道路なので、路上駐車している車があると、それをよけて通り抜ける車があるので、歩行者が車とぶつかりそうになっている所をみかけたことがあります。私自身も危ないと感じた経験があります。全ての道路に歩道があれば良いと思い、調べてみましたが、そのような道路を作るには広い土地と費用が必要で実現することは難しい状況のようです。家の前の道路には路側帯という白線で区別された部分もないので歩行者と運転者がそれぞれ気をつけるしかないと思いました。道路に何台も車がとまっていることを両親に話すと、学童保育所にお迎えに来る保護者の車が路上駐車しているのだとわかりました。

私が通っていた数年前までは車のお迎えは禁止されていました。私も学童に通っていたのでわかるのですが、お迎えは短い時間で終わるものではありません。親が迎えにきて教室に顔を見せてくれてから帰る支度を始めるし、その間に必ず学童の先生はその日の様子を親に話していました。トラブルがあったり、心配なことがあれば先生と親の話は長くなるし、帰り支度が遅い子もいます。その間ずっと車が路上駐車されているのだとしたら狭い道路で交通渋滞になってしまうのも想像できます。

兄や姉も一緒に路上駐車の状況を家族で情報共有しようということで話してみると、家族みんなが危険な場面を目にしていることに私はとてもおどろいてしまいました。

例えば、路上駐車の車列のすき間から子供が対向車線側に停車している自分の家の車にダッシュで飛び出してきていたり、車列から子供を乗せたと思われる車がいきおいよく飛び出して急な進路変更をしていることなどです。宅配便のトラックや福祉施設の送迎車もまきこまれてしまっているそうです。

家族で話したことを両親が学童保育所に路上駐車の対策をしてほしいと伝えに行くことにしました。その結果、次の週には学童保育所と市役所で対策をしてくれて、路上駐車禁

止の看板を学校の門の所など数ヶ所に貼っていました。路上駐車の手も見かけなくなりホッとしています。

学童保育所の小学生たちはもちろん誰も交通事故にあつてほしくはありません。車でお迎えに来る保護者の人にも事情があるのかもしれませんが、私たち子どもは親の行動すべてから学んでいることを忘れないでほしいです。迷惑駐車になる場所を理解して一人ひとりが心がけることが大切だと思います。私も交通マナーの意識を高めて過ごしていきたいです。